

小笠原村教育委員会教育長
松本 隆 様

小笠原村立小笠原中学校長
小野 満 賢 公印

平成31年度 小笠原村立小笠原中学校 評価報告書

標記の件について、下記のとおり報告します。

記

1 本校の教育目標

[教育目標]

- よく学び、考え、行動する人
- やさしくたくましい人
- 社会の一員として貢献できる人

[学校経営方針における教育活動の重点目標]

- (1) 教科の学習を通して身に付けた資質や能力を活用して課題解決力を高め、「多様な視点から物事を考え、判断し、表現する能力」を育成する。
- (2) 特別の教科 道徳や特別活動を通して、自他の違いを認め、尊重する態度を育み、「心豊かな思いやりの心情」と「全体を考えて行動する態度」を養う。
- (3) 総合的な学習の時間等の活動を通して、社会や世界に対する興味や関心を深め、「自ら課題を設定し、その解決に向けて主体的に取り組む意欲や態度」を育む。
- (4) 地域の教育センターとしての役割を基盤として、積極的に保護者や地域の学校参画を推進し、「生徒の教育活動の豊かな拡がりの実現」を目指す。

2 学校関係者評価の概要

【保護者】(小笠原村立小笠原中学校 保護者アンケート集計結果 参照)

[実施状況]

- 令和元年12月に実施した。49名、回収率90.7%
- 22項目で実施。経年比較ができるよう、アンケート内容は例年と同じにした上で1項目増やした。
- 方法は生徒を通じて配布し封筒を使用して回収した。
- 学校日より1月号に一部掲載。3月保護者会で示す予定であったが新型コロナウイルス感染症対策により中止のため資料配付。学校ホームページで公開する。

[保護者アンケート集計概要]

- 肯定的評価 80%以上 15項目
80%未満 7項目
- 肯定的評価が最も高い項目
設問 2 学校日よりや学級だよりを通じて、学校や生徒の様子等、いろいろな情報を発信している。
(肯定96%)
- 肯定的評価が最も低い項目
設問 2 1 学校ホームページを活用している(見たことがある)。(肯定45%)
- 肯定的評価が昨年度より5%以上上昇した項目 4
設問 2 1 学校ホームページを活用している(見たことがある)。(＋8% 45%)
設問 1 3 授業の中で、情報教育(情報モラル教育・操作指導・情報の取捨選択等)を進めている。
(＋7% 71%)

- 設問 2 2 学校 Facebook を活用している（見たことがある）（+7% 55%）
- 設問 8 1年間の学習をまとめた学習ファイル（通知表、学習の手引き、定期考査計画結果等）は効果的である。（+5% 88%）
- 肯定的評価が昨年度より5%以上低下した項目 4
- 設問 1 7 生活指導上の諸問題（いじめ等を含む）に対して適切な指導が行われている。（-10% 71%）
- 設問 1 9 学校施設は整備され、教育環境が整っている。（-10% 71%）
- 設問 1 6 防災や防犯、交通安全などの安全指導が、避難訓練などを通じて適切に行われている。（-7% 80%）
- 設問 1 学校だよりや保護者会を通じて、学校や学級の方針をわかりやすく伝えている。（-6% 94%）

[分析]

- 【学校運営・経営方針】の全ての項目で肯定的評価が94%以上という高い評価となり、学校の目指す方向性や生徒への働きかけについては一定の評価を得られている。
- 【授業・学習】の項目で9項目中6項目が前年度より高い評価となり、本校の教員の日々の授業や学習への取り組み方について昨年より成果が現れている。
- ホームページや Facebook などモバイル端末を活用とした情報発信について昨年度よりは肯定的評価の値が上昇したものの評価の値は低い。
- 回答で、E（答えられない、わからない）を選択する保護者が、平均7.6%（最大24%）あり、本校の教育活動に関する広報・アナウンスに一層努める必要がある。

[次年度に向けて]

- 【授業・学習】の66%の項目について、肯定的評価の値が上昇したとはいえ、全ての項目の肯定的評価が80%を超えているわけではない。60%を割った道徳科や情報教育については引き続き全教員が関わり、推進していくとともに、組織的・計画的に研究授業を行い教員の授業力を向上させる。また、着実に成果が見られる英会話能力については、保護者・地域の方に向けて発表する場面等を設定し、理解を得る。
- ホームページや Facebook からの配信については、引き続き内容を充実させるとともに、年度当初に閲覧の登録をしていただくなどの広報活動をさらに推進していく。

【生徒】（小笠原村立小笠原中学校 授業アンケート集計結果 参照）

[実施状況]

- 年2回実施
6月に全ての教科で11項目、11月に5教科10項目4教科11項目の授業アンケートを全校生徒に実施した。
- 1学期で肯定の値が高い項目
- 設問 5（共通）授業で先生の「声の大きさ」や「説明」はちょうど良く分かりやすいと思えましたか。（100%）
- 設問 6（共通）授業で使う道具やワークシートなどの教材は効果的でしたか。（100%）
- 設問 1 0（5教科）授業で先生の「板書」は見やすいと思えましたか。（99%）
- 設問 7（4教科）「作品」や「提出物」を期限内にきちんと提出している。（99%）
- 設問 8（5教科）ノートやプリントへの記入をしっかりと行うことができている。（98%）
- 設問 1 0（4教科）授業で先生の「見本」や「お手本」は分かりやすいと思えましたか。（98%）
- 2学期で肯定の値が高い項目
- 設問 5（共通）授業で先生の「声の大きさ」や「説明」はちょうど良く分かりやすいと思えましたか。（99%）
- 設問 6（共通）授業で使う道具やワークシートなどの教材は効果的でしたか。（99%）
- 設問 1 0（5教科）授業で先生の「板書」は見やすいと思えましたか。（99%）
- 設問 8（4教科）演奏、運動、制作などの活動に積極的に参加できている。（99%）
- 設問 1 0（4教科）授業で先生の「見本」や「お手本」は分かりやすいと思えましたか。（99%）
- 設問 1（共通）授業を受けることが「楽しい」と感じられる。（98%）
- 1学期で肯定の値が低い項目
- 設問 9（5教科）予習・復習を行い、理解や上達に努めている。（87%）
- 設問 9（4教科）定期考査に向けた学習に取り組んだ。（87%）

○2学期で肯定の値が低い項目

設問 9 (5教科) 定期考査に向けた学習に取り組んだ。(83%)

設問 9 (5教科) 予習・復習を行い、理解や上達に努めている。(83%)

○1学期から2学期で肯定の値が上がった項目数 4項目

○1学期から2学期で肯定の値が下がった項目数 8項目

[分析]

○1学期の肯定の値の平均が、95.7%、2学期の肯定の値の平均が、94.9%で、高い肯定率で大きな違いは無い。

○肯定の高い項目は1学期、2学期ともにほぼ同じで、教員の指導技術、教材開発に係わる項目であった。

○肯定の低い項目は1学期、2学期ともに同じで、家庭での学習に係わる項目であった。

[次年度に向けて]

○目的意識を明確にし、生徒の関心・意欲が高められるよう、生徒の実態を踏まえた授業改善を推進する。

○生徒の学習意欲を高め、生徒の家庭での学習習慣を確立する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組み①	<p>教科の学習を通して身に付けた資質や能力を活用して課題解決力を高め、「多様な視点から物事を考え、判断し、表現する能力」を育成する。</p>	<p>①基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させる授業、習得した知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育成する。</p> <p>②指導と評価の一体化を図り、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。</p> <p>③主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れるなど、多様な実践を推進する。</p> <p>④授業規律の指導や、家庭学習を含めた望ましい学習習慣の確立のための指導を推進し、学習した内容の着実な定着を図る。</p> <p>⑤「全国学力・学習状況調査」や「都学力調査」、「小笠原村学力テスト」等の結果の分析を組織的に行い、課題の共通理解を図るとともに、指導・評価の工夫・改善に役立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において1・2学期に実施した授業アンケート等に基づき、成果と課題を分析し、指導法の工夫改善を図った。 ・年度の初めに各教科担当から授業のガイダンスを行い、どのような心構えや準備が必要か、家庭での学習をどのようにすればいいかを説明し、生徒の意識を高めた。 ・基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るための工夫とともに、思考力・判断力・表現力を育成するために「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業を計画に基づき実施した。 ・授業のねらいの明示、振り返りの時間の確保を学校全体で行うことで、生徒が授業のポイントを押さえ、理解に繋げやすくした。 ・毎月発行する「進路学習だより」をもとにキャリア教育を推進し、生徒に目的意識をもたせ、学習意欲を喚起させる取組ができた。 ・「2週間学習プログラム」や「定期考査学習計画表」、「家庭学習ノート」の内容の工夫をするとともに、活用の仕方について丁寧に説明し、生徒の学習習慣の確立に努めた。 ・定期考査前の学習教室への参加を促し、各学年とも約8割の生徒が参加し、積極的に質問する姿が見られた。 ・授業規律が整い、落ち着いた学習環境が保たれた。 ・各教科とも多様な考え方を引き出す授業を展開し、与えられた課題を拡げたり発展させたりしながら学びを深める工夫を行った。

特別の教科 道徳や特別活動を通して、自他の違いを認め、尊重する態度を育み、「心豊かな思いやりの心情」と「全体を考えて行動する態度」を養う。

① 人権尊重・道徳教育の充実
 ア 道徳の時間の指導の充実を図る。
 イ 人権尊重・生命尊重に関する指導を通して生徒の自己肯定感を高める。
 ウ 道徳授業地区公開講座における道徳の授業及び意見交換会の充実を図る。

② 特別活動の充実
 ア 学級活動では、より良い学校生活の実現に参画しようとする自主的・実践的な態度を育てる。
 イ 生徒会活動では、自主的活動や、全校的取組を推進する。
 ウ 学校行事では、生徒の自主性や主体性、集団への所属感や連帯感を育成する。
 エ 部活動では豊かな人間形成を図る。

③ 生活指導の充実
 ア 生徒理解に努め、基本的な生活習慣の確立を図る。
 イ 生徒一人一人の人権を尊重し、いじめを絶対に許さない学校づくりを推進する。
 ウ セーフティ教室等を通して、健全育成上の課題を家庭や地域と連携して解決する。
 エ 安全教育・防災教育の充実を図る。

④ 教育相談の充実
 ア 生徒一人一人の様々な不安や悩みの把握に努める。
 イ 個に応じた指導の充実を努める。特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会の活性化と、教育のユニバーサルデザイン化を推進する。

・35回の道徳授業を学年教員が全員持ち回りで行った。また毎回の授業を各学年で検討し指導案を作成した。授業は全員が参加し、生徒の変容を全員で見取っている。授業後は参観者から授業者へ助言を行うことで授業改善に努め、充実を図っている。また、道徳の授業を学年毎に異なる時間で設定し、異学年の教員も参観できるようにした。

・道徳授業地区公開講座では教員・保護者・地域の他、代表生徒を意見交換会に参加させたことで、道徳授業への感想や、道徳の授業の前後での考え方の変化等を共有できた。

・学年によって弾力のある学級活動の時間割を組み、計画的にじっくりと時間をかけてそれぞれの課題に主体的に取り組ませることができた。

・学校行事のねらいを共有し、それぞれがその達成のためにどのような役割を担うのかを理解させた上で行事に取り組ませたことで大きな成果を得た。儀式的行事についても生徒の意識の変化があり、しっかりとした態度で臨むことができた。

・すべての運動部活動が都大会に駒を進めることのできる島しょ枠での大会に参加できるようになり、部活動に励む意識が高まった。文化部活動においても、作品等を発表・展示する機会を与えることで意欲が高まった。

・「全職員で全生徒を見る」を合い言葉にきめ細やかに様々な角度から生徒理解に努め、共有した。SCをはじめ関係機関とも積極的に情報交換をし、課題の未然防止・早期発見・早期対応に努めた。

・特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会を毎週設定し、課題のある生徒についての情報交換や今後の手立て等を緊密に話し合った。夏前にはUDについて、2学期には特別支援教室についての研修を行い、教職員の特別支援に対する意識を高めた。

総合的な学習の時間等の活動を通して、社会や世界に対する興味や関心を深め、「自ら課題を設定し、その解決に向けて主体的に取り組む意欲や態度」を育む。

① 生徒が将来の生き方について主体的に考え、行動する態度や能力の育成を推進する。ガイダンスの機能を充実させ、生徒一人一人の自己実現を支援する。

② 総合的な学習の時間における地域学習・職場体験学習・国際理解学習等を通して、自分自身と社会との関わりについて考えさせるとともに、道德の授業や読書活動等を「生き方」を学ぶ機会とする。生徒が自分の適性に合った生き方を選択できる力、望ましい職業観や勤労観を育み、進路を選択する態度や能力を養う。

③ 第1学年では「小笠原に関する環境」、第2学年では「平和」「身近な職業・様々な職業の働き方」第3学年では、「伝統と文化」「海洋生物」についての課題を設定し、自ら問いを立て、情報を収集し、整理・分析してまとめ、表現する力を養う。

④ 読書習慣の定着を図るとともに、豊かな心の育成や思考力・判断力の伸長を図る。

⑤ 体力向上に努め、健やかな体の育成を目指す。

・キャリア教育を組織的・計画的に行うとともに、身近な職業調べ、職場体験、企業訪問等を通して発達段階に応じて自身の将来の生き方について考える場面を設定した。

・毎朝の10分間の朝読書の時間は生徒とともに全教員が教室に入り読書を行うことを通して学校全体で読書習慣の定着を図った。

・総合的な学習の時間には全学年教員が関わり、個々の立てた課題に対する探究的な活動を支援するとともに、外部人材を積極的に招聘し、多様な考えに触れさせ、自分自身と社会の関わりや、世界に関する興味や関心をもたせる場面を設けた。

・1年生は「母島移動教室」、2年生は「硫黄島訪島事業」、3年生は「修学旅行」を中心に調べ学習を進め、実際に体験したことを踏まえて情報を収集し、整理・分析をしてまとめ、学習発表会においてプレゼンテーションソフトを用いて発表を行った。相手に分かりやすく自分の考えを伝えることに力点を置き、表現する力を高めた。

・特色ある教育活動として全生徒に管楽器を担当させて全校吹奏楽を行い、コンサートマスターやセクションリーダーを中心に主体的に縦割り集団の中での教え合いや練習の工夫をさせて曲を完成させ、音楽発表会で披露した。

・体育授業の他、運動部活動、村主催ロードレース大会や小中高連合運動会、球技大会に向けて係・委員会を構成して取り組ませ、主体的な活動を通して体力向上に努めた。

<p>取組み④</p>	<p>地域の教育センターとしての役割を基盤として、積極的に保護者や地域の学校参画を推進し、「生徒の教育活動の豊かな拡がりの実現」を目指す。</p>	<p>① 義務教育9年間を見通した年間指導計画の検討や、生活指導内容の共通化を推進する。中学校区全体の教育力の向上を図る。</p> <p>② 災害時に地域の一員として行動できる生徒の育成を目指す。</p> <p>③ 教育活動への地域人材の活用や、地域主催行事への生徒の参加など、学校・家庭・地域社会のネットワークの構築を推進する。</p> <p>④ 綿密な情報交換を心がけ、組織的、効率的な学校運営を進めていく。</p> <p>⑤ コスト感覚に基づく無駄のない効率的な予算執行に努める。常に施設の安全点検を心がけ、生徒の学習環境の整備と安全な施設・設備の維持に努める。</p> <p>⑥ 必要となる行事等の場面では、その支援や援助をPTAに協力を依頼する。</p>	<p>・隣接する学校として小笠原小学校小笠原高等学校と緊密に連携を取り、情報交換を進めながら年間指導計画の調整を図った。教科交流会の充実を図るとともに、相互の授業を参観し、学び合う機会をもった。また小学生に中学校の教員が出前授業を行ったり、高校の教員が中学生向けに授業を行ったりする機会を設けた。小中高連合運動会では3校が協力し充実した行事となった。</p> <p>・9月の村主催の防災訓練では、本校体育館が避難所となり、地域の一員として避難を行った。また、毎月の防災訓練や安全指導において様々な様態での訓練を実施し、被災時の対応力をつけた。中学生が担う役割については今後も村防災課と協議を続けていく。</p> <p>・小笠原諸島森林生態系保全センター、国立天文台、小笠原ホエールウォッチング協会、硫黄島旧島民の会、気象庁父島気象観測所、国連難民高等弁務官事務所、KAIZIN等から外部講師を招き講演を行ったり、小笠原海洋センターの清掃、東平の外来種駆除、青灯台のノロ落とし等のボランティアに参加したりして、村に貢献するとともに、地域の方々との関わりをもった。郷土講座では地域の方を招聘し、地域の文化を直接教えていただく機会をもった。</p> <p>・予算請求・執行については偏りや無駄の無いように厳密にチェックした。月に一度の施設点検を組織的に行い、補修・修繕をすみやかに行うとともに、用務主事と連携し、生徒の清掃活動の充実を図り、常に安全できれいな学校施設の実現を図った。</p> <p>・PTAとの連絡調整を副校長に一元化し、情報が迅速に回るように整備した。ノロ落としや餅つき大会のお手伝いや、機関誌の発行等の活動の手順が整理され、より一層PTAの方々の協力を得やすくなった。</p>
-------------	---	--	---

*上記のことを踏まえて、次年度の学校経営方針及び教育課程を作成いたします。